

協働事業提案制度（平成 27 年度実施事業分）の中間評価シート一覧

1 中間評価（確認）の方法

（1）協働事業の進捗状況等の確認（実施団体と事業関係課が話し合って評価）

上半期の事業の進捗状況と実施内容・結果を確認するとともに、下半期に向けて課題の改善を図るため、「協働事業中間評価（確認）シート」を作成する。

（2）中間評価結果における助言等

区民協働推進会議は、実施団体と事業関係課の評価結果に対して、助言等を行うことができる。実施団体と事業関係課は、その助言などを踏まえ、下半期の事業に取り組む。

2 中間評価の対象事業

	事業名
	ロボットねりま 2015
	大人と子どもの自然エネルギー体験工作イベント
	民学商農公連携事業 「ミツバチ利用による環境啓発と都市農業の六次産業化の促進」
	子育て支援・親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんがきた」の開催
	子育てママたちの社会参画サポートプロジェクト
	乳がん検診を促す啓発事業

協働事業中間評価（確認）シート

作成日 平成 27 年 10 月 1 日

事業名 ロボットねりま 2015

実施団体	区事業関係課
NPO法人科学技術教育ネットワーク	学校教育支援センター
事業の目的	
ロボット学習キットを教材としてプログラミングによる自律型ロボットの制御を、体験的・実践的に学ぶ講座の開催し、児童生徒の理科学習の支援を行う。	

事業実施予定・内容
「自律型ロボット講座」の開催
・開催回数 4回（初級講座3回、中級講座1回）
・対象者 小学校4年生～中学校3年生
・対象人数 1回あたり30人
・参加費 無料

実施団体の役割	区事業関係課の役割
1 講座の企画・運営	1 広報（区報）
2 講師の手配・打ち合わせ	2 会場（区立施設）の確保
	3 参加者の受付
	4 事業費の補助
	5 事業実施に必要な調整・補助

実施内容・結果
1 自律型ロボット講座（初級）の開催
・開催日時 平成27年8月20日、21日、22日 午前10時～午後4時 各日とも内容同じ
・参加人数 8/20 26人（申込人数29人） 8/21 20人（申込人数23人） 8/22 21人（申込人数22人）
・アンケート結果 別紙のとおり
2 自律型ロボット講座（中級）の開催
・開催日時 平成27年9月27日 午前10時～午後4時
・参加人数 24人（申込人数26人）

当初の想定より、良く（上手く）できたこと

- ・ 募集対象を小学 4 年生以上ことにより、落ち着きもあり、授業の進行をスムーズに行う事ができた。特に初級では、子供たちの理解も良かった。
- ・ 保護者の方の見学も多く、子どもたちの一生懸命に取り組む姿を確認できる良い機会になった。
- ・ 小学生から中学生まで一緒の内容で、かつ、障害のある子どもの参加もあったが、講師、スタッフの配慮により、全体の進行に影響なく、進めることができた。
- ・ 学年が上の子どものほうが上手くいくとは限らない内容で、面白みがあった。
- ・ 課題（障害物を避けて進むなど）に対して 2 人 1 組のチームごとにロボットのプログラミングをしたが、チームごとに発想が違い、他のチームの動きを観察することで、刺激にもなり、工夫にもつながっていた。
- ・ けんかをしたり、けがをしたり、一生懸命で脱水症状になったりする子どもがなく、無事終了できた。
- ・ 昼食をとる場所にも配慮して、部屋を確保することができ、スムーズな講座運営ができた。
- ・ 初めての会場であるため、パソコンの使用に伴う電源ケーブルの配線など、準備に時間がかかると予想された。そのため、お互いに協議をし、前日に準備をしたり、当日、朝早くから準備をした。

当初の想定どおりできなかったこと、それに対して対応したこと

- ・ ねりま区報と区ホームページだけの周知で十分集客ができると考えていたが、結果として、定員割れとなった。
- ・ 1 チームずつロボットの動きを確認する場面において、フィールドの数が不足していたため、確認作業を終了したチームが時間を持て余す場面もあった（本来は、他のチームの動きを確認してもらおう予定であったが、一部の子どもは集中力の低下が見られた）。
- ・ 中級コースは、2 学期の授業中であったため、ロボットを集めるのが苦労した。
- ・ 中級コースでは、講座の時間が少しオーバーしてしまい、アンケートの時間がとれなかった。
- ・ 上記事項について、次回に実施する機会があれば、改善に取り組む。

今後重点的に取り組むこと

- ・ ロボットのプログラミングに興味を持つ子どもは多い。これで終わりではなく、今後もこうした機会を持てるよう、検討していく。

協働事業中間評価（確認）シート

作成日 平成 27 年 10 月 28 日

事業名 大人と子どもの自然エネルギー体験工作イベント

実施団体	区事業関係課
練馬グリーンエネルギー	環境課
事業の目的	
太陽光発電装置の組み立て体験などを通じて、自然エネルギーに関する関心を高め、地球温暖化防止に寄与する。	

事業実施予定・内容
1 大人の工作教室の開催（2回） <ul style="list-style-type: none"> ・内容 : 自然エネルギーに関する講演、及び、ベランダにおけるミニ太陽光発電装置組立 ・対象者 : 大人50人 ・参加費 : 無料（但し、組み立てた装置を持ち帰る参加者からは装置の実費を徴収。） 2 親子の工作教室の開催（1回） <ul style="list-style-type: none"> ・内容 : 小さな太陽光パネルで走るミニソーラーカーの組立 ・対象者 : 小学生とその保護者 20組 ・参加費 : 無料

実施団体の役割	区事業関係課の役割
1 工作教室の企画・運営 2 チラシ等の作成 3 広報 4 参加者の受付 5 参加者アンケートの作成・集計	1 広報（区報、HP、区立施設） 2 会場（区立施設）の確保 3 事業費の補助 4 事業実施に必要な調整・補助

実施内容・結果
1 大人の工作教室「ミニ太陽光発電工作セミナー」 <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 : 6月21日（日） 午後1時～午後4時30分 ・開催場所 : 練馬区役所 多目的会議室 ・参加人数 : 見学コース: 28人（参加費 無料） 組立コース: 21人（12組）（装置実費 26,000円） スタッフ等: 13人 ・内容 : ミニ講座 「電気を『使う人』から『つくる人』へ ～パネル1枚からはじめるソーラー生活入門講座」 ミニ太陽光発電パネル組立ワークショップ ミニ講座 「そろそろまずい地球温暖化。できることから一歩ずつ」 2 夏休み親子の自然エネルギー工作教室 <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 : 8月2日（日） 午前10時～正午 ・開催場所 : 早稲田大学高等学院（上石神井 3-31-1） ・参加人数 : 親子20組（参加費 無料） スタッフ等 18名（早稲田大学高等学院: 8名、当団体: 10名） ・内容 : 自然エネルギーのお話し ミニ太陽光パネルとモーターで動くミニカーの工作

当初の想定より、良く（上手く）できたこと

1 大人の工作教室「ミニ太陽光発電工作セミナー」

- ・ 組立コースに予想以上に多数の参加者が集まった。
- ・ 年配の参加者が多いと予想していたが、小中学生（保護者付き）が組立コースに参加したり、子連れや若い世代の参加者もいて、多様な世代の参加があった。
- ・ 練馬区の施設に置いたチラシの中で、区役所、リサイクルセンター及び南田中図書館に置いたチラシを見て参加した方が比較的多かった。
- ・ 練馬区民環境行動連絡会発行の「もっと！青い空」に報告記事を掲載された。
- ・ Facebook に掲載した事後報告記事に、通常を遥かに上回る 1100 以上のリーチ数を獲得した。

2 夏休み親子の自然エネルギー工作教室

- ・ 20 組募集したところ、206 組もの応募があった（ねりま区報への反応が大きかった）。
- ・ 早稲田大学高等学院に特別協力と施設使用を依頼し許可された。
- ・ 早稲田大学高等学院の環境プロジェクト及び理科部物理班の高校生が事前準備から当日運営まで全面的に参加。参加した高校生からは次回以降も是非参加したいとの反応を得た。
- ・ 練馬 TV、J;COM ねりま、練馬経済新聞の取材があり、記事掲載/放映。

当初の想定どおりできなかったこと、それに対して対応したこと

1 大人の工作教室「ミニ太陽光発電工作セミナー」

- ・ ねりま区報を見て参加した方（2 名）が予想以上に少なかった。
- ・ 開催間際に知らされた講師（PV ネット）の方針変更により、組立に関する詳しい資料を参加者に配布できなかった。その結果、前面スクリーンを見ながらの組立作業となり、作業が難航する場面が見られた他、参加者からの質問、サポート作業が想定以上に発生した。
- ・ 組立作業開始前の講師説明に想定以上の時間を費やした。その結果、セミナー全体が長時間に及んだことも含め、参加者に疲労感が生じた可能性は否めない。

2 夏休み親子の自然エネルギー工作教室

- ・ ソーラーカーのスピードはゆっくりで、「遊び」としての面白さは限定的であった。
- ・ 工作のステップ毎に参加者全組の完了をもって（足並みを揃えて）次のステップに進む方式を採用したが、組によって作業速度に大幅な違いが出たため、長時間待たされる組が発生した。
- ・ 工作内容（作業の難易度他）が小学校高学年には物足りなかったかもしれない。

今後重点的に取り組むこと

大人の工作教室「ミニ太陽光発電工作セミナー」第 2 回開催に向けて

- ・ ねりま区報への掲載記事は、見学コースを中心に簡潔に記載する。
- ・ 練馬区の施設へのチラシ配布は、第 1 回において反応があった先を中心に重点的に配布する。
- ・ 組立に関する詳細資料を参加者に配布すべく、講師（PV ネット）と交渉〈承諾取得済〉。
- ・ 講演部分を短縮し、セミナー全体の所要時間を圧縮し、より快適に楽しめる内容とする。
- ・ ミニ太陽光発電装置の活用促進のために、類似の装置の使用例などの情報を収集し紹介する。
- ・ 参加者が、技術を説明できるスタッフとその他のスタッフの区別を一見してできるように工夫する。

協働事業中間評価（確認）シート

作成日 平成27年10月1日

事業名 民学商農公連携事業「ミツバチ利用による環境啓発と都市農業の六次産業化の推進」

実施団体	区事業関係課
江古田ミツバチプロジェクト	環境課・都市農業課
事業の目的	
白石農園において、新たに養蜂に取り組み、そのミツバチの活動を活用した環境啓発と都市農業の振興を図る。	

事業実施予定・内容
<ul style="list-style-type: none"> ・養蜂 ・養蜂を通じた環境啓発講座の開催 1回 ・ミツバチの受粉活動を通じたブルーベリーの増産等、農産物の課題解決と農業の向上への貢献 ・収穫するハチミツを活用した地産地消の特色のある新商品開発の試み

実施団体の役割	区事業関係課の役割
<ol style="list-style-type: none"> 1 養蜂の準備・実施 2 環境啓発講座の企画・運営 3 ミツバチの受粉活動を通じたブルーベリー等農産物の生産性向上の確認 4 収穫するハチミツを活用した新商品開発の試みと企画、運営 	<ol style="list-style-type: none"> 1 環境啓発会場（区立施設）の確保 2 環境啓発講座の区立施設等での周知 3 事業費の補助 4 事業実施に必要な調整・補助

実施内容・結果
<ol style="list-style-type: none"> 1 養蜂 <ul style="list-style-type: none"> 4月4日から毎週土曜日 午前9時～午前11時 養蜂家の指導のもと、毎回会員約10人程度で養蜂、採蜜等を実施（10月からはミツバチの状況によって、会員のみでの不定期チェックに切り替え） 2 ミツバチの受粉活動を通じたブルーベリー等農産物の生産性向上 <ul style="list-style-type: none"> （ブルーベリー開花期には巣箱1箱をブルーベリー園に移動して実施） 白石園主からは効果ありとの回答。他農家でも取り組み希望あり 3 収穫するハチミツを活用した地産地消の特色ある新商品開発の試み <ul style="list-style-type: none"> （江古田地区での個店による商品開発から地域の総力を挙げた協働の商品開発へ） *添付「資料1」参照 4 ミツバチ活動および環境啓発の実施 <ul style="list-style-type: none"> *添付「資料1」参照

当初の想定より、良く（上手く）できたこと

- 1 地域対策
当初の地域へのあいさつ回りでは、多くの家庭の理解が得られた。数件「ミツバチに刺されたことがある」、「子どもがいるので刺されるのが怖い」との反対意見があった。しかし、武蔵大学での6年間取組において安全に飼育できていること、世界的にミツバチの減少し、農業に深刻な影響が出ていることなどを説明し、日常的には地域の方々とのあいさつを交わすなど、良好な関係づくりに努めたことにより、現在まで問題なく進行している。
- 2 安全対策
活動上の事故対策として、会員・見学者用としてレクリエーション保険に加入しているが、その上で、手・足をカバーで覆うなど、安全対策を徹底したことにより、大きな事故を防ぐことができた。
- 3 農業生産現場でのミツバチ飼育
当初、養蜂仲間からは、農業現場でのミツバチ飼育は農薬が使われるため、やめたほうが良いとの忠告があった。しかし、白石農園はエコファーマーであり、農薬については全般にセーブされていること、ブルーベリーについては無農薬であることで、実施に踏み切った。現在まで問題なく推移している。
- 4 今回のミツバチ飼育
プロの養蜂家の指導を導入することにより、当初の2箱から4箱にミツバチを増やし、9月現在、いずれの巣箱も勢いを保っている。ただ、越冬を視野に対応をしたため、採蜜量はやや控えめの数量になっている（61.5kg）。
また、個々の会員が飼育実践ができるように指導を受けたため、毎回参加した会員の技術力が向上した。
- 5 農産物の生産性向上と課題解決
ブルーベリーの開花期には、直接、園内に巣箱を移した。農家からはブルーベリーの生産性向上に役立ったという評価をいただいた。他の農家からもミツバチ飼育希望が出ている。

当初の想定どおりできなかったこと、それに対して対応したこと

- 1 農業生産現場でのミツバチ飼育
体験農園の近くでミツバチを飼育し、体験農園参加者にも気軽に体験や見学をしていただきたいと考えていたが、安全性の確保や近くにねりま大根の伝来種を保存・育成している畑があること、売り物の農産物が生産されていることを踏まえ、少し離れた畑での実施となった。その結果、日常的な環境啓発活動につなげることができなかった。
- 2 商品開発の遅れと環境啓発
添付「資料1」参照

今後重点的に取り組むこと

- 1 地域の総力を挙げた「協働」による特色あるハチミツ商品開発と環境啓発
添付「資料1」参照

協働事業中間評価（確認）シート

作成日 平成 27 年 10 月 1 日

事業名 子育て支援・親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんがきた」の開催

実施団体	区事業関係課
NPO法人さくらひろば	豊玉保健相談所
事業の目的	
<p>赤ちゃんを初めて育てている母親を対象に、0歳児（2か月～5か月）を持つ母親のためにつくられた仲間・きずな・学びのプログラム（早期支援プログラム）「赤ちゃんがきた」を開催し、母親の育児に対する不安やストレスの軽減し、仲間作りによる根本的な子ども虐待予防を図る。</p>	

事業実施予定・内容
<p>「赤ちゃんがきた」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数 3回（1回あたり 2時間×4回 連続講座） ・対象者 0歳児（2～5か月児） 原則第1子とその母親 ・対象人数 1回あたり母子20組（ただし、会場の広さにより変更する場合あり） ・対象地域 練馬区内全地域 ・参加費 テキスト代として実費（800円）を徴収

実施団体の役割	区事業関係課の役割
<ol style="list-style-type: none"> 1 プログラムの企画・運営 2 会場（区立施設以外）の確保 3 講師の手配・打ち合わせ 4 チラシの作成 5 参加者の受付 	<ol style="list-style-type: none"> 1 広報（保健相談所の窓口・区報） 2 会場（区立施設）の確保 3 参加者からの保健相談所に対する質疑への対応 4 事業費の補助 5 事業実施に必要な調整・補助

実施内容・結果
<p>1 第1回「赤ちゃんがきた」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 平成27年6月1日～22日 毎週月曜日 午前10時～正午 ・開催場所 さくらひろば（豊玉北1-12-3） ・参加人数 母子17組（申込組数18組） ・内容 別紙、募集チラシのとおり ・アンケート結果 別紙のとおり
<p>2 第2回「赤ちゃんがきた」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 平成27年9月4日～9月25日 毎週金曜日 午前10時～正午 ・開催場所 光が丘保健相談所、光が丘区民センター会議室 ・参加人数 母子15組（申込組数18組） ・内容 第1回目と同じ ・アンケート結果 別紙のとおり

当初の想定より、良く（上手く）できたこと

- ・区報を通じて、区内全域に講座の開催を周知することができた。それに合わせ、保健相談所の新生児訪問、育児栄養相談、健診等で講座のパンフレットを配布した。申し込みの大きな後押しになった。
- ・参加者から良い講座だと聞いた助産師が見学に来た。BP プログラムが広がる機会になった。
- ・初めて出張講座を行ったが、団体と保健相談所との事前の打ち合わせを十分行うことで、教材の運搬や会場の設営などをスムーズに行うことができた。
- ・参加者のアンケート結果では、「外出や仲間作りのきっかけになった」「同じ月齢の赤ちゃん、ママと出会える機会はあるようでない。連続プログラムを通じて仲間作りになって良かった」等、4回の回を重ねるごとに親しくなっていた。同じ立場の母親同士が安心して話し合い、共感を生む中で、育児不安や悩みの軽減を図ることができ、今後につながる大事な仲間づくりができた。
- ・また、「一生懸命にという責任感やプレッシャーを強く感じていたが、気負わず自分らしく楽しんで接していこうという気持ちが生まれた」等のアンケート結果から、今は「親子の絆を深め、子どもの心に安定根を育むことが大事」というプログラムの重要な点が参加者にきちんと伝わったことが確認できた。自分の子どもを、今まで以上に可愛く感じられるようになり、楽しんで子育てをしたいという心の変化につながった。
- ・講座終了後、参加者同士がメールの交換を行うなど、交流を深めていた。

当初の想定どおりできなかったこと、それに対して対応したこと

- ・第1回目の講座では参加者の出席率も高く、意欲的であった。第2回目の講座（光が丘保健相談所）では、毎回欠席者が出たため、個別に、前回の資料を渡し、事前に説明をして参加しやすいように配慮した。
- ・第2回目の講座では、3日目、4日目に会場を保健相談所内から、同建物内の貸し部屋で行った。正午に退室を完了する必要があるため、3日目は開始時間を9時45分にしたが集まりが悪かった。4日目はプログラムの開始を5分程遅らせた。
- ・第2回目の講座では、3日目、4日目の会場が変わり、開始時間が早まったため、2日目の欠席者には、その連絡とともに、様子を伺いながら3日目も安心して参加して欲しい趣旨の電話をした。

今後重点的に取り組むこと

- ・区報を見て応募した参加者は、講座のパンフレットを見ていないため、講座の詳しい内容を知らなかった。今後は、参加決定通知送付時にパンフレットを同封する。
- ・講座内容では、引き続き、0歳時期の子育ての大切さを親子の絆、母子の精神面に焦点を当てて伝えていく。0歳時期の母親の育児不安を軽減し、子育て仲間を作ることに重点を置く。

協働事業中間評価（確認）シート

作成日 平成27年10月1日

事業名 子育てママたちの社会参画サポートプロジェクト

実施団体	区事業関係課
くらしこよみ	人権・男女共同参画課

事業の目的

子育て中の女性は、社会との接点が自ずと限られたものになり、子どもと一对一の閉鎖的な環境で、自己否定や他者否定に陥りやすいため、そうした母親を対象に、心の自立を支援する意識啓発講座を開催し、積極的な社会参加に繋げる土壌づくりを行う。

事業実施予定・内容

講座名	育児は育自	子育てをしながら自分らしく働くを考える	フォロー会、講座参加者を講師としたプチ講座
講座構成	4回連続	3回連続	8回
対象者	未就学児を持つ母親	未就学児、小学生の児童を持つ母親	主に連続講座参加者
対象人数	40名	30名	各10名
参加費	2,000円	1,500円	500円
託児	1名1回当たり 500円		-

実施団体の役割	区事業関係課の役割
<ol style="list-style-type: none"> 1 講座の企画・運営 2 講師の手配・打ち合わせ 3 チラシの作成 4 参加者の受付（育児は育自以外） 5 アンケートの作成・集計 	<ol style="list-style-type: none"> 1 会場の確保 2 区報、区立施設等での事業の広報 3 参加者の受付（育児は育自） 4 男女共同参画センターの事業紹介等（指定管理者との調整） 5 事業費の補助 6 事業実施に必要な調整・補助

実施内容・結果

- 1 講座「育児は育自」（4回連続講座）
 - ・開催日時 5月12日、19日、6月2日、9日 全火曜日
 - ・講師 日原みちる氏（マザートゥリー代表）
 - ・参加人数 33人（申込者数32人）
 - ・内容 別紙1 募集チラシのとおり
 - ・アンケート結果 第1回目講座終了後、別紙2のとおり
第4回目講座終了後、別紙3のとおり

実施内容・結果

2 フォロー会

- ・開催日時 6月23日(火)
- ・参加人数 8人
- ・内容 「育児は育自」講座参加者を対象に受講後の気持ちの変化などをシェアする

詳細は別紙4のとおり

3 プチ講座

- ・開催日時 7月7日(火)
- ・参加人数 11人
- ・内容 あげぼのNERMAを講師に招いた「乳がん啓発講座」
詳細は別紙5のとおり

当初の想定より、良く(上手く)できたこと

- ・育児は育自では、4回目の初回に悩みや不安、パートナーの育児に対する協力などのアンケートを行った。その結果を講師と共有し、2回目以降でアドバイ的な要素も含めて進めていただいたことで、参加者のニーズに応えた満足度が高い講座となった。
- ・昨年の反省(保育利用の不足)を踏まえ、保育できる人数を増やした。その結果、希望者全員に保育を利用いただくことができた。
- ・育児は育自に参加された保健師の資格を持った方が、プチ講座にも参加され、練馬区の保健師と話す機会が持てたことで、区で働くきっかけとなった。
- ・また、昨年講座に参加された方の中から、今年度になって2名就業したとの報告を受けた。
- ・講座の周知について、多くの知人にチラシを配布していただくことができた。また、小児科、助産院等も、本事業に強く共感していただき、快くチラシを配架していただくことができた。

当初の想定どおりできなかったこと、それに対して対応したこと

- ・講座を周知するための区報掲載が時期的に間に合わず、想定どおりに参加者を集めることができなかった。
- ・対応として、区内掲示板、予定以上の数の公共施設へのチラシ配布、区のHP等への掲載、近隣への戸別配布など行った。
- ・その結果、参加者は、一定程度集まったが、定員には満たなかった。必要としている方々に十分に情報が行き届かなかったことは残念。

今後重点的に取り組むこと

- ・受講後のアンケートやヒアリング結果から、講座参加の満足度は高い。ただ、その一歩を踏み出すのに抵抗がある人が多い。より楽な気持ちで参加してもらえよう、チラシの文言やイラストの工夫、声掛けをしていく。
- ・また、講座終了後、具体的に社会参画の一歩を踏み出すためには後押しが必要であるため、フォローアップや参画の機会づくりを積極的に行っていく(プチ講座講師への依頼や、団体の他の事業のお手伝いへの依頼等)。
- ・更に、社会参画に重要なパートナーの育児参加を進めるためのプチ講座を企画したい。

協働事業中間評価（確認）シート

作成日 平成 27 年 10 月 1 日

事業名 乳がん検診を促す啓発事業

実施団体	区事業関係課
あけぼの - N E R M A -	北保健相談所

事業の目的

乳がんにかかる人は 40 歳前後に急増するため、その世代が多く集まる小中学校の P T A の会合等に乳がん体験者と保健師が出向き、乳がんの専門医の話、体験者の体験談などを通じて、乳がんに対する意識啓発を図るとともに、乳がん検診の受診を促す。

事業実施予定・内容

- 1 出張講座の開催（20 回程度）
区内小中学校の P T A ・父母会等を基本に、幼稚園・保育園・高校・大学の P T A 、学童クラブなど、30 歳代から 40 歳代の女性が集まる団体会合に出向き、DVD の上映、保健師、体験者の話、乳がん触診モデルでの自己触診体験を通じて、乳がんに対する意識啓発を図る。
- 2 区内のイベント等での普及啓発
 - ・母の日に乳がんの検診キャンペーンとして、豊島園で来場者にティッシュを配布する。
 - ・一般向けに乳がんをテーマに講演会を開催する。
 - ・区主催の健康フェスティバルにてブースを設け、チラシの配布、パネルの展示、乳がん触診モデルでの自己触診体験を実施する。

実施団体の役割	区事業関係課の役割
1 出張講座での体験談の講話	1 グッツ等の作成にかかる情報提供
2 出張講座での触診モデルの借上	2 区内専門医師への講演依頼・調整
3 出張講座等で使用するグッズ等の作成、準備	3 出張講座の周知・受付・調整
4 イベントの企画・運営	4 出張講座での司会・進行、保健師からの講話
5 イベント事業での体験談の講話	5 イベント事業の周知
6 出張講座等のアンケートの作成・集計	6 事業費の補助
7 出張講座、イベント事業の周知補助	7 事業実施に必要な調整・補助

実施内容・結果

- 1 出張講座の開催（11 回実施）
日程・参加者数・参加者アンケート結果は別紙のとおり
- 2 母の日乳がん検診キャンペーン
 - ・区内のフラワーショップ（7 店舗）の協力のもと、花束を購入するお客様に、検診を進めるティッシュを配布してもらった。
 - ・豊島園、練馬駅にて検診を進めるティッシュを配布した。

当初の想定より、良く（上手く）できたこと

- ・前年度から学校のPTA等に講座の開催の働きかけを行った効果があり、年度当初の早い時期から申し込みがあり、講座も順調に実施できている。
- ・今年度は、小学校・中学校のPTAに限らず、30歳代、40歳代のお母さんが多く集まる場所にも出張するという目標どおり、育児サークルや高校のPTA、お父さんの育児サークルから依頼があった。
- ・その中で、育児サークルの参加者は年齢が若く、区の乳がん検診の対象では無い人が多かったため、早期発見には、自己触診が大切であることを中心に、触診モデルを活用して啓発している。
- ・地域ごとに各保健相談所が当番で出張講座に取り組むことで、乳がん検診の必要性について、職員全体の意識が向上している。

当初の想定どおりできなかったこと、それに対して対応したこと

- ・出張講座の回数が予定の20件を超える申し込みになっている。お互いに協議をしながら、可能な限り対応している（現在24件の申し込み有、断らずに対応）。

今後重点的に取り組むこと

- ・10月31日に順天堂練馬病院と協力して、一般向けの講演会を行う。参加者が集まりやすいようアロマセラピーのお話しを取り入れる工夫をしている。多くの方に参加いただくようお互いが連携して広報活動を行っていく。